

2011 果樹剪定講習会を開催

3月27日（金）青空のもと、雪解けが進む砥山ふれあい果樹園において八剣山発見隊の主催による「2011 果樹剪定講習会」が開催されました。この講習は2005年から開催されており、今回で7回を数えます。

受講者39名は自宅の庭などの果樹の剪定方法をプロから学びたいとの目的のもと、市内一円から参加しました。数回受講した人もいて、講習終了後も熱心に質問を繰り返して、2時間の講習予定が30分以上も超過しました。



【八剣山の麓での講習会】

講習はまず樹高3mほどの若いリンゴの木から始まり、京谷講師は、「剪定はエコひいき」の精神で行うべきである、つまり貴重な枝は大事にしそうでない枝はいじめるといふ剪定の基本となる方針を説きました。受講者のほとんどは全部の枝や花芽が大切に思え、そのために剪定ができないことから、枝が必要以上に茂ってしまうという問題を抱えていました。講師の的確なアドバイスと大胆なハサミさばきに、「自分ならあの枝は絶対に切れない」という受講者もいて、剪定の難しさと奥深さを実感した講習となりました。

園主の瀬戸さんは、「何年やってもなかなか完璧な剪定はできない」と述べていました。

この講習会は、市民を八剣山地域に招き入れると同時に剪定技術をとおして結びつきを強めるものとなっています。

剪定の目的

- ①主枝、垂主枝、結果枝の順序を明確にして、秩序立った樹形にする。結果として樹全体にまんべんなく陽が当たるようになる。
- ②果実が樹冠の中で均一に配置され、商品性の高い果実が揃って得られる。
- ③それぞれの果実に十分に栄養が行き渡るため、食味、外観（着色）、サイズの優れた果実が生産される。
- ④枝数が制限されるため、結実数も減り、摘果の労力が軽減される。
- ⑤収穫、摘果などの作業性が向上する。
- ⑥脚立が入られるなど、作業がしやすくなる。

以下は、剪定の実際についてです。

樹の観察

- ①剪定するときは太陽を背に受ける位置に立ち、主な枝の配置、特に枝の込み合ったところが無いか対象樹を観察する。



- ②勢いよく伸びた徒長枝（いたずらに伸びた枝）の量などから、樹の勢いの良し悪しを見極める。
- ③樹全体をみて、大きな部分から整理していく。
- ④同じような方向に出て、込み合っているところがあれば、必要に応じて整理する枝を決め、元から全部とるか、あるいは縮小する。

骨組みとなる枝の選定、確定

①方位、隣接する樹との関係などを考慮して、骨組みとなる枝を決め、競争する枝を剪定する。



②車枝（幹の同じような位置から四方に伸びた枝）を置かないようにする。

③剪除は原則として主枝の先端から基の方に向かって行う。主枝の先端を頂点とした60度くらいの角度の中に枝が収まるようにする。



④込み合っている枝や、樹形を乱す徒長枝、垂直枝、内向枝、逆向枝を剪除する。

⑤長くなり過ぎて先端の垂れ下がってきている枝、強く伸ばしたい枝は少し先端を切り詰める。

⑥同じ勢力の二股の枝は作らない。

⑦枝の重なる場所では、上下で少なくとも1mは間隔を置く。

剪定の順序

大中枝、枯れ枝、徒長枝、小枝の順に剪除する。また方向性としては、上から下、外から内へ向かう。

主枝の勢力のバランス

成木になったときに数本残った主枝が同程度の勢力になるようにする。そのためには、若木のうちに将来強くなり過ぎるような大枝は数を抑え、勢力の弱い枝は大事にして（枝数を多くして）勢力が強くなるように仕立てる。



【剪定を終えた果樹】



【講師の紹介】

きょうたにひでとし
京谷英壽先生

前職：北海道農業研究センター果樹研究室長

果樹研究の第一人者として、現在も果樹農業の指導に当たっています。

発行：八剣山発見隊（事務局長 瀬戸修一）

〒061-2275 札幌市南区砥山 84 番地

☎・FAX 011-596-2694

E-mail toyamafureai@gol.com

URL <http://hakkenzan.com/>